新年のごあいさつ

令和5年の新春を迎えて

津市長　前葉　泰幸

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、新型コロナワクチンの接種などによる感染拡大防止策とともに、訪日外国人受け入れ拡大や全国旅行支援が行われるなど、ウィズコロナが新しい段階へと進展した一方、ロシアによるウクライナ侵略、円安などを要因とする原油価格・物価高騰の長期化が私たちの生活に深刻な影響を与えた一年となりました。

津市はこの状況に即応し、０～18歳の児童１人当たり１万2,000円の子育て家庭物価高騰対策支援金の給付、地域経済の活性化と地域ＤＸの推進に寄与するプレミアム付デジタル商品券の発行、小規模企業者や障害者支援・介護保険施設等に対する事業継続支援、肥料等の価格高騰に直面する農業者への支援など、津市独自の施策をきめ細かく丁寧に展開してまいりました。

その一方で、津興橋の架け替えや大谷踏切の拡幅、香良洲高台防災公園の整備など市民生活や地域経済を支える基盤整備とともに、大門・丸之内地区の未来ビジョンづくりや津駅周辺を発展させるための道路空間検討の取り組み、河芸町島崎町線第３工区早期事業化に向けた県との連携など将来のインフラ整備の取り組みを進めました。大きな変革を遂げようとするこの社会の先を見据えた未来の都市づくりも進め、８月には津市地域脱炭素宣言を行い、2050年までの温室効果ガス排出実質ゼロの達成に向かって、プラスチック資源循環推進に関するパートナーシップ協定を企業と締結するなど、地域の未来に責任を果たす脱炭素行動を開始するとともに、自治体ＤＸの推進やリニア中央新幹線三重県駅につながる広域的な都市づくりにも新たな一歩を踏み出しました。

そして、迎えた令和５年は、長期化するコロナ禍や物価高騰などにより先行きが不透明な社会情勢の中で、適時的確な行政が求められる年となります。市民の皆さま、事業者の皆さまの支援に全力で取り組むと同時に、長期にわたり整備が進められてきた中勢バイパスの全線開通が間近となるほか、大門・丸之内地区の将来像の実現への取り組みや津駅周辺整備の検討が次なる段階に進むなど、新たな展開に向けて動き出す年となります。

コロナによって停滞を余儀なくされていた人の流れや経済などが新たな段階へと力強く進み、市民の皆さまが前向きに明るく過ごせるよう市役所一丸となって取り組んでまいります。

皆さまにとって、本年が笑顔と希望にあふれる１年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。